

## ■ 親子参加で地域交流の活性化（矢倉学区未来のまち協議会）

### 1 【活動の趣旨】

令和5年度の矢倉学区高齢化率は23.9%で14学区中5番目に高い。今後地域の活動における担い手確保は緊急の課題であるが、従来の活動では地域ボランティア確保は困難と言える。それは時代の変化を捉えられておらず、児童の育成に保護者を巻き込めていなかったからである。今後は保護者が関わる機会を意図的に計画し、地域のボランティアと保護者間の交流を増やし地域内の交友関係を広めたい。

### 2 【特徴的な活動内容】

○「草津川探検」参加(児童20名、保護者18名)

学区内の草津川河川敷を使った水生生物採取と解説を滋賀県びわ湖環境科学センターの協力を得て実施。地域の住民、まちづくり協議会部会委員で構成したボランティアで、親子参加の「夏の思い出」事業をサポートしている。

○「子ども防災キャンプ」参加(児童29名、保護者3名) 希望が丘文化公園内野外活動センターにて小学生とその保護者を対象に1泊2日で「防災」について体験学習を実施し、地域の一般ボランティアとキャンプリーダー(龍谷大)が活動をサポートした。参加者数は徐々に増加傾向にある。

○「BohNoの手作り給食」参加(児童7名、保護者6名) 立命館大学学生団体BohNoと学区社協とのコラボ事業。滋賀県の地産地消をテーマに、昼食やお菓子作りを親子で勉強し、体験する事業をサポートした。それ以外にも「子ども食堂事業」を地域団体共同で実施されている。



### 3 【実施に当たっての工夫】

- ・館外で実施する事業内では、移動や作業においてケガや事故が発生しないよう動線を配慮し、熱中症対策にも注力している。水分や塩分補給が出来る様に注意し計画した。
- ・保護者どうしの交流の機会が持てる様にし、親子の会話も増えるよう親子参加可として募集を行った。

### 4 【事業の成果】

何れの事業も参加者数は少しずつだが増加し、低学年の参加者数が全体を押し上げている事から、域外からの入居者交流が進むと期待できる。また地域の年配者のサポート人数も安定している事から、世代間交流にも一定の理解が定着したと考えられ、今後の担い手不足対策の為の土壌づくりが少しずつ進んでいると思われる。

### 5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・サポーターの顔ぶれに幅が無い為、高齢者の参加者層を厚くする為に老人クラブや社会福祉協議会委員への働きかけも重要だと考えている。
- ・近隣大学の地域交流は今まで立命館大学中心だったが、今後は龍谷大学生へのアプローチにも力を入れ新規事業の立ち上げや短期サポートも提案していきたい。
- ・今後は地域の中学生による職業体験で「中学生のお手伝い窓口」を開設し、高齢者の「スマホ使い方相談」等を実施することによる事業展開も行っていきたい。

【 子ども防災キャンプ 】



【 BohNoの手作り給食 】